

学校教育目標	美しさを感じる子 (徳) よく学ぶ子 (知) 元気に運動する子 (体) がんばりぬく子
目指す学校像	「利他の精神で子どもが伸び合い、地域に信頼される学校」～ 一人ひとりのWell-being (幸せ) の実現を目指して～

重点目標	1 魅力あふれる授業の実践と真の学力の育成 2 自己肯定感・自己有用感を高める学校づくりの推進 3 コミュニティ・スクールとして、地域とともにある学校づくりの推進 4 安心・安全できれいな学校づくりの推進 5 一人ひとりに応じた働き方改革と意欲に満ちた教職員集団の醸成
------	--

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標					年度評価		実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<現状> ・R6 さいたま市学習状況調査「算数」「社会」「理科」ともに各学年のさいたま市の平均を上回った。 ・R6年度さいたま市学習状況調査の算数5・6年において「教と計算に関する区分」では、同集団比較においてR5年度の結果を上回った。 ・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目では、R6年度さいたま市学習状況調査における肯定的な回答の割合は90%を超えた。 ・運動習慣「運動やスポーツをすることは好きですか。」⇒6年生を除くすべての学年で市平均を下回った。 <課題> ・個別に課題のある児童への最適な指導・支援・授業研究や日々の授業実践を基に、本校の実態に合った、よりよい教育課程の編成 ・低下傾向にある児童の体力向上	子どもが確かな学力・体力を付ける教育課程の経営	①学校課題研修の推進、全国学力学習状況調査・市学習状況調査結果分析、学力向上カウンセリング学校訪問等により、個別最適な学び・協働的な学びの展開、児童の学力を高めるため授業研究会の実施、指導方法等の工夫改善を進め、改善を加えた年間指導計画を作成する。(年度末まで) ②教育課程検討委員会(年3回程度実施)により、カリキュラムマネジメントを進め、学習評価、日課表、学校行事等の改善に繋げる。 ③新体力テストの結果を分析し、児童の体力向上に資するキャンペーン活動等の取組、体育の年間指導計画の改善、体力向上につながる環境整備を進める。(2月まで)	①児童の個別最適で協働的な学び、学力を高めるための授業研究会等が、学校課題研究で展開され、改善を加えた年間指導計画が作成されている。 ②・学校評価関連3項目「個別最適な学び・協働的な学びの実現～」でA評価をいずれも40%以上(昨年度30%、26%、22%) ③児童の体力を向上させるキャンペーン活動が実施され、運動好きの子どもが増えたか。(市生活習慣に関する調査で半数以上の学年で市平均を上回ることができたか。)				
		子どもが確かな学力・体力を付ける授業実践	①学校教育目標「がんばりぬく子」を達成するための校長講話の実施、学校だよりの発行、学級活動、特別活動の一体的な推進を行う。 ②個別指導や日本語指導等の場の開発等、環境整備のため、必要な備品、消耗品、教材等の購入を計画的に進める。(1学期末まで)	①児童の事故肯定感や自己有用感が高まっている。(市学習状況調査【生活習慣に関する調査】「じぶんにはよいところがあると思う」で前年度より向上している。) ②S o l aの一むや日本語指導に必要な環境整備(教材や備品等)が進んでおり、活用につながっている。				
2	<現状> ・R6市学習状況調査【生活習慣に関する調査】「自分にはよいところがあると思う。」⇒4つの学年で市平均を下回る。 ・通常学級等で個別に配慮が必要な児童・特別支援学級(3学級) ・通級指導教室(発達障害・情緒障害) ・日本語指導が必要な児童(個別の指導計画) ・外国にルーツのある児童・家庭等 <課題> ・児童がより自己肯定感等を高められる教育や個別最適な教育の持続的な提供	自己肯定感・自己有用感を高める学校づくりの推進	①学校教育目標「がんばりぬく子」を達成するための校長講話の実施、学校だよりの発行、学級活動、特別活動の一体的な推進を行う。 ②個別指導や日本語指導等の場の開発等、環境整備のため、必要な備品、消耗品、教材等の購入を計画的に進める。(1学期末まで)	①児童の事故肯定感や自己有用感が高まっている。(市学習状況調査【生活習慣に関する調査】「じぶんにはよいところがあると思う」で前年度より向上している。) ②S o l aの一むや日本語指導に必要な環境整備(教材や備品等)が進んでおり、活用につながっている。				
		一人ひとりの教育的ニーズに応じる特別支援教育・日本語指導の推進	①学校運営協議会において「家庭・地域と共に子どもを育てるための方策」等、学校の課題解決に向けた熟議を行う。(2学期末まで)※多文化共生 ②学区内の企業や施設等との交流等により、登下校中の児童の安全確保を進めるとともに、教育課程実施上の教育資源としての活用を進める。(2学期末まで)	①学校運営協議会において学校の課題に対する具体的な解決策を考案し、その後解決に向けて実行している。 ②学校運営協議会の熟議において学区内の機関等との具体的な連携等、具体的な取組案が作成される。(自動車販売会社、日本語国際センター等) ③学校評価保護者質問「学校からの積極的な情報提供」での肯定的評価75%(昨年度67%)				
3	<現状> 【令和6年度学校評価 教職員評価より】 ・「教育活動充実のための地域施設や人材の有効活用」肯定的評価88% 否定的評価12% 【令和6年度学校評価 保護者評価より】 ・「保護者や地域に対しての積極的な情報公開」⇒A評価66% <課題> ・「ボランティア活動の充実」自由記述 ⇒年々増加している外国籍の児童や保護者に対する対応	地域の教育拠点としての学校づくり	①学校内の施設設備の安全確保と修繕を適時に行う。教育環境を整備するため、ICTを活用するなど毎月の定期点検により情報の共有化、視覚化を進める。(毎月、毎日) ②児童の安全を確保し、教育課程上必要な予算措置を年度当初及びその都度講じる。特に、空きスペースや壁面の掲示板等の組織的な有効活用を進める。	①学校運営協議会において学校の課題に対する具体的な解決策を考案し、その後解決に向けて実行している。 ②学校運営協議会の熟議において学区内の機関等との具体的な連携等、具体的な取組案が作成される。(自動車販売会社、日本語国際センター等) ③学校評価保護者質問「学校からの積極的な情報提供」での肯定的評価75%(昨年度67%)				
		地域の教育拠点としての情報発信・情報提供	①学校内の施設設備の安全確保と修繕を適時に行う。教育環境を整備するため、ICTを活用するなど毎月の定期点検により情報の共有化、視覚化を進める。(毎月、毎日) ②児童の安全を確保し、教育課程上必要な予算措置を年度当初及びその都度講じる。特に、空きスペースや壁面の掲示板等の組織的な有効活用を進める。	①学校評価教職員質問「環境整備」でA評価50%(昨年39%)「安全点検の実施」でA評価70%「(昨年度54%)・学校評価保護者質問「学校の環境整備と安全、美化」での肯定的評価75%(昨年67%)				
4	<現状> ・令和6年度学校評価教職員質問「環境整備」でA評価39% ・「安全点検の実施」でA評価54% ・学校評価保護者質問「学校の環境整備と安全、美化」での肯定的評価67% <課題> ・持続可能な学校安全の整備 ・空きスペースの活用や壁面の掲示物の工夫	学校経営の前提となる「安心・安全な学校」の維持管理	①学校内の施設設備の安全確保と修繕を適時に行う。教育環境を整備するため、ICTを活用するなど毎月の定期点検により情報の共有化、視覚化を進める。(毎月、毎日) ②児童の安全を確保し、教育課程上必要な予算措置を年度当初及びその都度講じる。特に、空きスペースや壁面の掲示板等の組織的な有効活用を進める。	①学校評価教職員質問「環境整備」でA評価50%(昨年39%)「安全点検の実施」でA評価70%「(昨年度54%)・学校評価保護者質問「学校の環境整備と安全、美化」での肯定的評価75%(昨年67%)				
		施設設備の有効活用	①学校内の施設設備の安全確保と修繕を適時に行う。教育環境を整備するため、ICTを活用するなど毎月の定期点検により情報の共有化、視覚化を進める。(毎月、毎日) ②児童の安全を確保し、教育課程上必要な予算措置を年度当初及びその都度講じる。特に、空きスペースや壁面の掲示板等の組織的な有効活用を進める。	①学校評価教職員質問「環境整備」でA評価50%(昨年39%)「安全点検の実施」でA評価70%「(昨年度54%)・学校評価保護者質問「学校の環境整備と安全、美化」での肯定的評価75%(昨年67%)				
5	<現状> ・教職員の平均年齢：38.8歳(管理職、会計年度教職員を除く) ・キャリア段階Ⅰ基礎形成期(1～5年)9名 ・キャリア段階Ⅱ伸長期(6～15年)7名 ・キャリア段階Ⅲ充実期(16年～)6名 <課題> ・学校の教育力をさらに高めるため教職員一人ひとりが自らの資質能力を主体的に向上させること。	主体的に学校運営に参画する教職員育成のための指導・育成等の充実	①「常盤北小パワーアップ講座」を行い、管理職、中堅教員、教員採用試験受験予定者、若手教員、希望者等を対象とした交流会、コーチングを行う。(月1回) ②教室訪問を行い(原則毎日)、「管理職による授業観察シート」を用いて授業記録を録り、指導助言する。(原則毎日)	①講座に参加した教職員の資質が向上している。選考受検者は合格や登載等の成果が認められたか。 ②教室訪問の際「授業観察シート」への記録や授業者へのフィードバックを重ねることにより、指導力の向上が見られる教員が70%以上に達している。				
		主体的に学校運営に参画する教職員育成のための業務改善・働き方改革	③運営委員会に「働き方・業務改善検討委員会」を位置付け、定期的に業務の進め方についての振り返りを行い、改善に繋げる。(月1回) ④運営委員会に「倫理確立委員会」を位置付け、定期的に教職員の状況について情報交換、意見交換、必要に応じて相談を行う。(月1回)	③学校評価教職員質問「学校の働き方改革の推進」における3つの項目でのA評価が前年度より向上する。(昨年度「業務配分」17%、「行事や会議の精選」29%、「働き方の工夫」17%) ④学校評価教職員質問「教職員事故0」における2つの項目でのA評価が前年度より向上する。(昨年度「服務」54%、「職場環境」29%)				